

CAROWAA

CAROWAA —ちやろわ

アチヨリの言語で「our village」「our home」「our land」といった意味を持つ言葉です。

JICAプロジェクトとともに自分たちの故郷がより発展する、という気持ちを込めて、グルオフィスの現地スタッフが名づけてくれました。

ちなみに配色イメージは北部らしく「ラテライト」です。



JICAグルオフィス企画 ラジオ番組 “Dongo Lobo Acholi” On Air 開始！

アチヨリ地域で圧倒的な人気を誇るMEGA-FM (メガ・エフエム)にて、JICAグルオフィス企画のラジオ番組「Dongo Lobo Acholi」が2月3日より放送を開始しました。ウガンダ北部では、これまでUNHCR等の人道支援機関が中心に活動を行ってきたため、人道支援フェーズから復興・開発フェーズへ切れ目なく支援をつなぐことを目的として活動を開始したJICAは後発であり、現地では「JICA」の名前がまだまだ浸透していません。今回「コミュニティレベルの人たちにJICAやその活動について知ってもらおう」とグルオフィス初の試みとしてラジオ番組を企画しました。電化率4%と言われるウガンダ北部ではテレビはほとんど普及しておらず、一般市民にとってラジオが重要な情報源です。

MEGA-FMの放送の大半はアチヨリ地域の共通語であるルオ語のため、アチヨリ出身のナショナルスタッフ、ケネス、エマニュエルが原



大活躍のスタッフ、エマニュエルとケネス



放送第2回では3人もゲストが登場！
右からパボ・サブカウンティ長オルバ・ベン氏、コミュニティ開発チームよりアチレ、ジャスティン、JICAグルオフィスのケネス

稿作成から出演まで大活躍しています。第1回の放送では「JICAとは?」「JICAのウガンダ北部での活動」に焦点を当て、2人がDJの質問に答える形式で説明をし、アムル県でのプロジェクトについては、ゲストとして招いたアムル県庁エンジニア、ルイス・オケロ氏が昨年日本でJICA研修に参加した経験も交えて話してくれました。放送中にアチヨリ地域のリスナーから質問の電話がかかるなど反応は上々、今後の展開が楽しみです。

ちなみにタイトルは英語で「Develop the Acholi Land」、日本語では「アチヨリ地域の開発・発展」という意味で、ナショナルスタッフが名づけました。

放送は毎週水曜日午後8時10分から9時まで、こちらのゴールデンタイムを獲得しました。何回かの放送後には北部の人みんなが「JICA」を「ジカ」ではなく、「ジャイカ」とよんでくれますように…

コミュニティ開発チーム、再始動

年末年始にかけて一時は一人体制だったコミュニティ開発チーム。1月中旬からまた続々と団員がウガンダ入りしました。1月19日にまず5名、そして2月9日に4名、あっという間に総勢10名の大所帯です。

これから緊急パイロットプロジェクトの入札・契約をはじめ、パイロットプロジェクト形成など、アチヨリ地域の将来を担う業務が目白押しです。特に緊急パイロットプロジェクトサイトのひとつであるアムル県パボサブカウンティでは、公共用地に居住していた国内避難民の住民移転は完了したものの(ニュースレター1号参照)、残されたお墓の移転問題が課題と

なっています。長年に渡るキャンプ生活で多くのお墓が用地内に作られましたが、掘り起こし、移転する場合はアチヨリの伝統儀式に則らなければなりません。しかし儀式費用が用意できないなどの理由で移転が間に合わず、そのままになっているお墓が100以上あるとのことです。今後サブカウンティと相談の上、早急な対応が求められています。

再び事務所が賑やかになったコミュニティ開発チーム、この時期が正念場のひとつとなります。10名の力とチームワークでさらなる成果を期待しています。JICAグルオフィスも精一杯フォローしたいと思います。



10名になったコミュニティ開発チーム

会計検査院能力向上支援プロジェクト グルにて実地研修

1月18～19日、カンパラで実施中の技術協カプロジェクト「会計検査院能力向上支援プロジェクト」の運営指導調査団とともに、北島専門家、カウンターパートの合計10名がグルオフィスを訪れました。北部で行われている2件の開発調査型技術協力の緊急パイロットプロジェクトを学習材料として、入札図書や図面に目を通し、サイトを実際に視察することで、より適切な検査計画を策定することが目的です。

メンバーはまず、グルオフィスにてJICAの北部復興支援事業の目的・概要説明を受けた後、総合開発チーム・南団員、中島団員、コミュニティ開発チーム・竹本団員よりそれぞれのパイロットプロジェクトの目的・内容、契約プロセスの紹介、今後の建設工事スケジュールの説明を聞き、意見交換を行いました。日本式の正確なスケジュール管理に、「ウガンダでは新聞公告まで1年遅れることもよくあ

る。信じられない！」との感想が聞かれました。また、日本側から技術移転するはずが、逆にカウンターパートからコンサルタントチームに対して「ウガンダでは何でも偽造できるから書類には気をつけて」「工事途中で逃げた業者もいるから注意」といったアドバイスまで飛び出し、議論は白熱しました。

2日目はパイロットプロジェクトサイトである、ルリヤンゴ、パボを視察し、検査計画へのイメージを膨らませるとともに、国内避難民のハット(北部の伝統的家屋)での生活の様子や手づくりの木製の橋に、首都カンパラとの大きな違いを感じたようです。今後の検査計画策定プロセスに役立つことを期待します。

総勢17名！グルオフィスにこんなに大人数が入ったのは初めてで、ものすごい熱気に包まれました。8月に再度グルのパイロットプロジェクト現場で実地研修を行うとのこと。次回の来訪も楽しみにしています。



パイロットプロジェクトの契約プロセスについて説明をする総合開発チーム・南団員(写真左)



パイロットプロジェクト工事予定地で説明をする平井プログラムマネージャー(写真左)



JICAグルオフィスニュースレター第1号に対して予想以上にたくさんの方から感想や激励の言葉をいただき、ありがとうございました。第2号をお届けします。これからも様々な現地情報を発信していきます。コメントなどありましたらぜひお聞かせください。(ueda.megumi@jica.go.jp)



恐怖の土ぼこり

今日のおまけ

ただ今乾季のウガンダ。グルの暑さと乾燥は首都カンパラと比べてまた格別ですが、なんといっても赤土で覆われた大地から舞い上がる土ぼこりは強烈です。

右の写真はオフィスで使っている扇風機。ほんの数日前に羽根を掃除したにもかかわらず赤茶色に変わってしまいました。写真ではわかりませんが、前後カバーの網目にも赤土の粒子がぎっしり詰まっています。うっかり触ると腕やシャツに網目模様ができてしまいます。人間もこれと同じ量だけ土ぼこりを吸い込んでいるのかと思う複雑な気分ですが、「腹黒い上田には色が薄まってちょうどいい」という声がどこからか聞こえてきます…。



2月の動き

・2/3 JICAグルオフィス企画

ラジオ番組開始(毎週水曜日)

・2/15～19

国際開発ジャーナル・

中坪氏 グル取材(3回目)

・2/中～下旬

北部復興支援プロジェクト

ホームページ開設予定

〈総合開発チーム〉

・米山総括ほか団員3名ウガンダ入り

・2/下旬 パイロットプロジェクト

(2ロット中1ロット)契約完了・工事着手予定

〈コミュニティ開発チーム〉

・岩本総括ほか団員3名グル入り

・2/中旬 緊急パイロットプロジェクト入札、

契約手続き開始予定

発行：JICAグルオフィス

所在地：6A Samuel Doe Road, Gulu, Uganda

Phone: +256-(0)392 900158